

マイセルフ

自分らしく



「好き」を仕事に

～広報として自分の思いを伝える～



大井競馬場イルミネーション



私たちが見つけた品川区の

Vol. 10 立会川駅前通り繁栄会

ちよつといい所
素敵なおところ



品川駅より京急線で10分、立会川駅前の商店街。坂本龍馬ゆかりの地として知られる、ぬくもり溢れる商店街です。商店街キャラクターのりょうくんは、大井競馬場のうまたせ！くんとも大の仲良しです。

2016 Dec.



- 「好き」を仕事に
- 男女共同参画センターからのお知らせ

2～5 P

6～8 P

VOL. 53

特集

好きを仕事に

うまたせ!



～広報として自分の思いを伝える～



特別区競馬組合に勤務されている広報の河合さんにお話を伺いました。



「このお仕事に就いた理由は何ですか？」

僕は元々、芸人志望だったんです。大学時代は相手とお笑いのオーディションに行ったりもしていました。好きなことじゃないと長続きしないなって思っていたので、競馬にお笑い、それと野球も好きだったので、球団職員とかも考えてたんです。その中でもやっぱり小学生の頃から競馬のゲームが大好きだったので、大学時代に競馬関係の仕事をしているのを探してみてもうこしかなと思えました。東京の品川で、しかも公務員として働けて競馬もできる、という条件が揃ったのがここでした。広報になる前は、現場の方に3年間いました。実際にレース体系を作ったりとか、調教師さんなどの馬をどこで走らせるのか決めたり、競馬に直に関わる仕事をしていました。競馬が好きなので現場にいた頃も楽しかったんですけど、広報では自分の思いを表現することができて、それを皆さんに伝えられるっていうのが一番楽しいですね。

特別区競馬組合の事業内容や設立された役割などを教えてください。

大井競馬場自体、私たちが持っているわけではありません。この大井競馬場を持っている会社、マンションでいうと管理会社のようなものがまた別にあり、そこに私たちは家賃のようなものを支払います。大井競馬場を借りた状態で競馬を開催しても良いという「開催権」を23区各々が持っており、実際に競馬場を使って、23区の組合として競馬を運営するのが私たちの仕事になります。元々の目的は第二次世界大戦で東京が焼け野原になったので、その戦災の復興費用を集めるために始めました。競馬で運営して出た利益を23区の復興に使おうという目的です。終戦直後は八王子で競馬をやっていたのですが都心からかなり遠いので、売上があまり良くありませんでした。23区内で競馬ができる所ということで、八王子から移り、1950年に大井競馬場が誕生しました。現在では競馬運営で出た利益を各区に分配し、23区の福祉向上に役立っています。また、区の財政に貢献するというのが最大の目標ですが、役所が競馬を開催することで、健全な娯楽の提供を行うというのでも大事な使命です。

職員は何名で、どんな職種の方がいらっしゃるんですか？

常勤職員が全員で82名います。男性は73名、女性9名です。1名は特別職(常勤副管理者という現場のトップ)、それ以外で職員として働いているのが再任用6名を含め81名という形です。その内獣医さんが5名います。馬がレース中に怪我をしたら治さないといけないので。年齢層は、20代が

15名、30代が13名、40代が27名、50代が18名、60代が9名です。その中でも女性の方は、獣医さんや事務の人もいけば、議会でも働いている人もいます。競馬は知らないけどなんとなく面白そう、という理由でここを選ぶ人もいます。仕事柄公務員ってお堅いイメージがあるのですが、「やわらかい仕事をしたい」という理由でここを選ばうっていう人がいたり、あとは女性向けのイベントなどもやってたりしているので、自分のやりたいと思っていることが若いうちからできるんじゃないかと考える人がここを受けたりもします。育休に関してはもちろん女性で取る人もいますし、今年は男性が育休をとったりもしています。ちゃんと希望を出せば他の人間でカバーするっていう体制は取れています。

「日本一おしゃれなフリーマーケット」などを企業とコラボして事業展開をされていますが、今後の意図や展開などを教えてください。

どうしても競馬場っていうと、おじさんが赤ペンを持にかけて新聞持って、というイメージを持たれている女性が多いと思うんです。でもそういう方に実際に来てもらってそうではないんだなというのを感じてもらおうが一番だと思い、日本一おしゃれなフリーマーケット等のイベントを実施しています。お子さん向けにはヒーローショーをしたり、ポニーの乗馬体験を実施したり、馬に触れていただくというイベントを開催しています。女性向けでいうと、「シテイリビング」というフリーペーパーに、「無料の競馬体験ツアーがあるの女性のみなさん参加しませんか」という募集をかけたりにしています。この事業の定員は40名くらいなんですけど、いつも200

3000名の応募があります。普段競馬に触れることのない女性の方々に、最初はイベント目的で来ていただければと思います。フリーマーケットの場合、いやでも周りに馬が走っている様子が見えます。その時に「馬ってすごいね」って、実際に競走馬を間近で体験していただくことで興味を持ってもらえたらというのが私たちの思いです。お子さんが楽しめたり、豪華なレストランにあるようなシャンデリアや建物なんかもあるので、いろいろな人が楽しめるような環境を作っています。

地域との関わり方やつながりで気を付けていることなどはありますか？

僕たちは競馬をやっているので、競馬のお客さんを第一に考える、となると競馬のことしか見えなくなってしまうことがありますが。そうではなくて「地域の方の生活に貢献することを第一目標に考える」というのをテーマにおいて仕事をするようにして



取材風景

います。お客さんではないからどうでも良い、ということはずせぬ、23区の「競馬はなくせ」という方々にも、私たちは皆さんの生活のために仕事をしているんです、ということを知ってもらえたら良いなと思います。まずはイメージアップを頑張りたいです。そのために夏祭りとか町内活動とか防災訓練にも積極的に参加しますし、最近だと、しながわ観光フェアにも参加しました。僕は実家が田舎の石川県なので近所のお祭りとかは頻繁にやっています。東京だと近所の人たちとあんまり挨拶がないとか、隣に誰が住んでいるのかわからないとか、僕はちよつと寂しいなと思うんです。実家にいた頃を思い出して地域のイベントには積極的に参加したいなって考えます。

競馬場の近所に住んでいる方にとっては、馬のおいが毎日したり、2万人3万人が競馬場に来たりすることもあるので、駅が大混雑します。そういう迷惑をかけてしまうことがあるため、例えば、大田区や品川区で地域のイベントをやるときには競馬場のキャラクターが参加したり、競馬場で飼っている馬を連れて行って実際にそのイベントに参加したりもします。そうやって、地域と共生することで地元の方々が親しみを持って競馬場でありたいと考えています。

河合さんが携わっている事業は、何ですか？また、目標はありますか？

僕は主にSNSを担当しています。SNSを担当していて感じるのは、やっぱり女性の方が拡散力は強いなって思いますね。イベントなどを行うと、「競馬場きれいでした」ということをツイッターなんかに掲載してくれるのは、圧倒的に女性の方が多いです。そこからメディアに取り上げられ

たりもしますし、流行は女性からみたいなのことも実感します。また、テレビ中継もやっているのでも携わる業務、メディアに関することを中心にやっていますね。他には、テレビの取材なども僕が担当しています。馬って暑いのが苦手、夏だと朝2時とか3時くらいから、競馬場の照明をつけて練習しているんです。時々そういう時に取材が入ったりするので僕らも2時とか3時に出勤することはあります。ここに入っても一度も辞めたいと思っただことはないのです。目標といえ、去年新しいスタンドができたので、それに合わせて去年の11月3日に地方競馬最大のレースがありました。そこで50億売り上げようという組合全体の目標を絶対に達成しよう頑張ったのですが、達成できず悔しくてしょうがなかったです。睡眠時間を2時間とか3時間にすると自分が壊れちゃうなと感じたので、もうちよつと考えて効率良くしないと、な、と思いました。勤務時間は決まっているので、その中で最大のパフォーマンスをしようと考えながら仕事に取り組みようになりました。そうしたら自分一人を追い詰めなくなり、周りが見えるようになりました。それと今年の目標は、ツイッターのフォロワーを2万5000人にするこ

今2万2700〜8000くらいなんです。あとは、フェイスブックの1万いいねーですかね。ツイッターはプライベートでもやっているの、どんな投稿をしたらうけるかなとか、とにかく考えながらやっています。客観的事実をただ伝えるっていうの、だと面白くないですし、絶対にこれをやらうけるなって一言は必ず考えて書いています。

このお仕事ならではのことがありましたら教えてください。

馬のおいが付いちゃうので、家に帰る前には消臭スプレーを大量にガーってかけています。事務方でも厩舎(きゅうしゃ)という馬がいる小屋に行くことがあって、そういうときには作業着を着るんです。マスクもして行きます。そういうのが嫌だって言う女性の方もいると思いますが、こういう所で働く女性は気にしない人が多いですね。

色々な職種の方がいらつしゃるといことで、各部署と連携をとる上で大切にしていることはありますか？

ただ「こういうことをお願いします」では

特別区競馬組合

特別区競馬組合は、品川区にある大井競馬場で競馬を主催・運営する特別地方公共団体。主な目的は23区財政への寄与であり、これまでに総額1903億円余を分配。

TCK(東京シティ競馬)の愛称で親しまれている大井競馬は、昭和61年7月31日にわが国初の夜間競馬「トゥインクルレース」を開始し、平成28年には30周年を迎えます。平日の夜・都心・イルミネーション・グルメ・イベント・お客様をおもてなしする「ホスピタリティ」など、競馬にさまざまな付加価値を加え、より質を高めたトゥインクルレースをお客様に提供しています。数ある夜のアミューズメントの中で、より一層光り輝くものとしてお客様に支持していただき、日本の夜の楽しみとなることを目指して、全力で取り組んでいます。



取材場所からの風景

なくて、相手の方を尊重するというのが一番大事ですね。向こうもやっぱりプロフェッショナルな方なので。あと自分の都合だけを言わないっていうこと。「この取材を受けていただくことによって競馬場全体のためになるんです」というのをきちんと説明することが大事かなと思います。例えばただ「PRしたいんです」じゃなくて、「皆さんの仕事の大切さをお客さんに伝えたいんです」ときちんと説明するなど、相手のことを尊重する姿勢が広報として大切なと思います。

プライベートでの悩みや私の切り替えについて教えてください。

そうですね、プライベートの悩みはとにかく彼女が出来ないことです。あと趣味を仕事に繋げたので、公私の切り替えはあまりないです。なので、僕は土日も競馬場

に行っています。勝とうと思つて馬券は買っていないんですけど、JRA※という団体の馬券なら僕らでも買えるので、趣味で競馬をやっています。馬つてほとんどが同レベルなんですけど、ちょっとずつ差があるんですよ。たとえば夏に強いとか、雨が降った日だけやる気があるとか、半年間休養してリフレッシュしたら元気になったとか、本当にいろいろな馬がいるんです。そういうのは全て競馬新聞に細かいデータが載っています。そういうデータを読み込み、予想するのが楽しいです。それと僕は芸人志望だったので、町を歩いていて「このキャッチフレーズ面白いな」と思つたらすぐに携帯にメモしています。本当に日常の全部がネタみたいになるんです。休日はファミレスでコントを書いたりもしています。学生時代はコンビを組んでやっていたんですけど、今はやっぱり時間も相手も難しいので、今年は一人で出られるR1グランプリに出ようと思つているんです。これがプライベートの一部ですね。それがまたツイッターに生かされる。ただ、一線は越えちゃいけないっていうのがあって、そこだけは意識するようにしています。

ご自身のワークライフバランスについて、今後結婚されたら育児や介護休暇を取りたいなどありますか？

僕は育児を取つてみたいとは思いますが、また、競馬をやっているのは年間1000日くらいです。競馬がある日は、ナイターなので勤務時間が13時から22時になり、普段競馬のない日には普通の9時から18時まで

※大井競馬は地方競馬なので、職員は地方競馬の馬券は購入できません。中央競馬JRAの馬券は購入できます。



になります。寝る時間はナイターでも普通のときでもそこまで変わらないですね。深夜まで働くわけではないので、お風呂に入つて24時からには寝られます。そこから、次の日7時に起きるっていう感じですが、ナイターと昼間の勤務時間のシフトがありますが、生活リズムは一切崩さないように意識はしています。そこが崩れちゃうと、やっぱり身体がおかしくなるので。仕事と生活の比率は、去年までは仕事9、プライベート1みたいな感じでした。けどそれをやってもなかなか思うような仕事ができないんですよ。そこで、色んな本を読んで今は5対5にしています。自分だけ9対1でも、周りが6対4とか7対3でやっていたら結局7対3で落ち着いちゃって、最終的に限界が出てくることに去年気づいたというか。自分が思つていた9対1に対する結果が思つていたよりもついていたので。それで身体も壊しかけたりとか色々悩んだりすることはありました。それで今年からは、プライベートも楽しめるように意識して、5対5のバランスになるようにしています。そのプライベートの5はお笑いのライブに行ったり、最近カメラを買つたので写真を撮りに行ったりとか、あとはポケモンGOですかね。



パドック風景

長期休暇などはとれますか？

ここは正直言って厳しいです。競馬がある日は絶対出勤というルールがあるので、どうしても休むというときには取れませんが、なかなか有給は取れません。ただ冬の時期はナイターができないので、1ヶ月に1週間くらいしか競馬がない週とかもあるんです。今年の1月なんか1週間くらいしか競馬がなくて、そういうときにどかっと休めます。書き入れ時なのでお盆休みはありませんが、逆に夏休みは今年だと、6月から10月までの間でとれたり、そういう意味では、割とよそより融通が利くようになっています。競馬の開催日には、常勤82名全員来ています。特に、実際に作業をしている現場の人間は困ってしまいます。その人たちがインフルエンザになってしまつと大変ですので、みんな結構体調管理には気をつけています。僕は、睡眠時間は絶

対に7時間はとっています。食事にも気をつけていて、必ず毎日同じ時間に食べるようにしていますね。そんなに深夜になることはないの、競馬が無くて同じようなスケジュールにしています。

何か大切にしていることはありますか？

仕事においてですが、僕らって女性の気持ちは、自分ではわかっているつもりでも結局わかっていないんですね。だから僕は、女性には積極的に意見を聞くべきだと思います。人間ってだんだんプライドが高くなって、人に聞けなくなってくると思うのですが、わからないことは素直に聞く、わかる人に聞く、という姿勢を持つて僕はやっていきたいです。

人生においては、自分の人生なので、後悔しないようにというのが一番です。これからいろいろな選択肢が出てくると思いますが、別に親が一番って思ったり恋人が一番って思ったりしてもいいと思います。自分がその時良いと思った方を選ぶのが一番大事だと思います。あとは一人で抱え込まないこと。恥ずかしいとか、親に迷惑をかけたくないとか、自分の中で抱え込むことはあると思いますが、言った方が楽になり



大井競馬場マスコットのうまたせ!くん

ます。最近、自分は何をやっても恥ずかしくないと思えるようになりました。仕事で失敗しても落ち込まないというか、どうやったらリカバリーできるかなって切り替えられるようになりました。何か困難があつて、自分が壊れてしまおうくらいだったら逃げてもいいと思うんです。いろいろありましたが、平均して少しずつ正解に近づいてきたのかなって思いますね。実家を出た時もやっぱり「出てよかったのかな、出ないほうが家族みんなと過ごせてよかったのかな」って思うこともありましたが、今、結局やりたいことができているので良かったなと思います。とりあえずやってみようかな、ぐらいのノリであまり難しく考えずに、何でもチャレンジしてみるのが良いと思います。



取材後、河合さんと編集委員

編集後記

マイセルフに参加させていただいたのは3回目ですが、今回は競馬場ということで全くの未知の世界でした。取材させていただくことで、自分も今まで知らなかったことを直接現場で働く方からお話を伺えることや、その情報を発信し、ゆけお手伝いができ、とても嬉しいです。

(柴田桃佳)

競馬という、インタビューの中にもあったように、どうしてもおじさんのものというイメージがありました。しかし今回の取材を通して、また、取材後に実際に自分でも競馬をやってみることで、意外と敷居が高いものではないのだということがわかり、競馬に対するイメージがガラッと変わりました。今回はその部分を感じてもらえれば良いなという思いで編集しました。

(島田聡美)

今回は取材に参加できませんでした。取材の音声を聞き、音声起こしをしました。競馬というおじさんがやるというイメージがありました。しかし、競馬で出た利益は23区の福祉向上に役立っていると、初めて知りました。競馬に対するイメージがガラッと変わり、競馬をやってみたいと思いました。取材の音声を聞いて、とても楽しそうに取材に行けなくて残念でした。次回は取材にも全力で取り組みたいです。

(水野昌紀)

今号では取材に参加できませんでしたが、後輩が中心となって編集作業を進めてくれたのでとても頼もしく思います。河合さんのお話から、私たち女性が投稿したSNSの発信力の強さを知りました。女子大生の日々の何気ない投稿も広報の力になりうるのだとわかり嬉しいです。

(宮内美紀)

今回のインタビューで印象に残ったのは、広報として仕事をすることで「相手の方を尊敬する」ということです。こちらの都合だけを言わない、という心掛けは普段からも、そしてこれから社会に出てからも必要なことだと思います。競馬場に関しても、実際に何って自分か思い描いていた場所とは異なり、随分と良いイメージを持てるようになりました。編集を通してまた一つ貴重な経験ができてよかったです。

(村山知壽子)

私にとっては3回目の取材です。限られたページの中で伝えるべきことを伝える、という難しさを改めて実感しました。取材では河合さんがとても楽しい方で、あつという間に時間が過ぎてしまいました。競馬に対するイメージも一変し、今年二十歳になった記念として馬券を購入してみました。やはり勝てませんでした。私、私、河合さんのように、自分の興味と適性に合う職業に出会えたら良いなと思いました。

(渡辺理沙)



委員集合写真

■ 男女共同参画推進講座 (7月5日 参加者6名)

『親として知っておきたい デートDVってなあに?!』

講師 野本 みほ氏 (NPO法人女性ネットSaya-Saya)

結婚していない恋人たちの間で起こる暴力、特に若い世代で親密な関係にある相手からの暴力を「デートDV」と言います。束縛などもそうですが「愛されている証拠」「自分に落ち度があるからではないか」などととらえ、我慢をしまい、相手からの暴力をエスカレートさせてしまうこともあります。講座では、デートDVの基本的考え方から、どうして相談できないのかの構造と、親として相談された時の受け止め方などを学びました。



■ 男女共同参画推進講座 (7月28日 清泉女子大学1年生 参加者363名)

『デートDV講座～これって暴力? デートDVって?～』

講師 上間 愛氏 (NPO法人女性ネットSaya-Saya)

恋愛関係にある人たちの間で起きる暴力「デートDV」、SNSを使った暴力やトラブルについて正しい知識や情報を得ておくことは、自分自身を守るとともに、知らず知らず加害者になってしまわないためにも重要です。「思い込み」や「見ないふり・沈黙」「偏見」「間違った情報」などが暴力を育てていること、自分の感覚や気持ちを大事にして相手を尊重する対話法などから、誰もが傷ついたり傷つけたりしない方法、考え方を学びました。



■ ワーク・ライフ・バランス講座 (9月1・8日 (全2回) 参加者延20名)

『キラリ生活のためのこころ磨き』(夜間)

講師 結木 利奈氏 (株インビジブルビジョンズ代表)

一日目は「こころの声に耳を傾けよう」

心の声の現状を把握し、なりたい自分になるために、コミュニケーション、声の役割・効果など、表現力をつけるための姿勢、呼吸、発生方法また、幸せを呼ぶ“声”の法則、心に届く挨拶のトレーニングなどを実施しました。

二日目は、「ヴォイスセラピーで声活力アップ」

こころをハッピーにするためのヴォイスセラピートレーニングのほかに、『私』のTA (Transactional Analysis) 傾向、エゴグラムを実施し自己理解を深めました。

全2回の講座で、受講生からは、「普段、中々しない声の出し方、言い方が勉強になりました。声を明るくすることは楽しくなるようです。」「声の大切さを勉強しました。心から声を出すことは、とても気持ちよいです。」「相手を知ることも大切、自己開示することも大切、話し方を明るくしたいと思いました。」などの感想をいただきました。



■ 男女共同参画推進講座 (10月6・13日 (全2回) 参加者延46名)

『ひとの心に寄り添う傾聴講座 (初級)』(夜間)

講師 別府 明子氏 (日本心理カウンセリングセンター所員)

コミュニケーションはあってもなくてもいいものではなく、どうしても必要なものです。・・・生きるために必要なものなのです。

家庭や職場、近隣などの良い人間関係を築くため、またよい関係を維持するために「傾聴」の知識はたいへん役に立ちます。そこで、コミュニケーションの手段、コミュニケーションをとる場合の一般的な心得、傾聴する場合の心得、聴いてもらうことの効果などロールプレーを通して学びました。

参加者からは、「コミュニケーションと距離、姿勢の関係がとても参考になりました。日常で思いあたることがありました。」「ロールプレーは苦手ですが今日は楽しかったです。」「共感のひと言、質問を入れながら話すこと、やってみます。人づきあいが更に楽しくなりそうです」などの感想をいただきました。



■ 男女共同参画推進講座（シェイクスピア講座）（10月11・18日（全2回）参加者延46名）

『女性力とシェイクスピア』

講師 門野 泉氏（清泉女子大名誉教授）

毎年申込の多い講座ですが、今年は、一日目が「エリザベス一世と『女性力』」、二日目が「『ヴェニスの商人』と『女性力』」の講義を実施しました。

受講者のみなさんからは、「シェイクスピアの作品の面白さは、内容の意味する所が、当時のイギリスの時代背景に関連している事などを知れた」「シェイクスピアの内面を作品に表しているなど、先生の解釈と説明が面白かった」「先生の知識の広さや人柄に引き込まれた」などの高評価をいただきました。



講座のお知らせ

会場 品川区立総合区民会館さゆりあん（品川区東大井5-18-1）

問合せ先 男女共同参画センター 電話 5479-4104 FAX 5479-4111

定員 25名 託児あり（定員に達している場合もありますのでご了承ください。）

※以下の内容は原稿作成時のものです。最新の情報は広報しながわおよび品川区HPでご確認ください。

| 開催日 | 内容 | 募集掲載予定 広報しながわ |
|------------------------------|--|------------------|
| 12月23日 ☀️ 午前10時～12時 | 危険なSNS ～ネットトラブルから自分と家族を守る～ 講師 木村 尚文氏 | 11月21日号 |
| 1月21・28日 🌞 午前10時～12時 | 女性の活躍支援講座 「パパもママもワーク・ライフ・バランス～ 共働きで子育てと生活を楽しむ方法」(2日制) 講師 杉山 錠士氏 | 12月11日号 |
| 2月21・28日 3月7日 🌕 午前10時～12時 | 身近なコミュニケーション (3日制) 講師 小柳 茂子氏 | 1月21日号 |
| 3月9・16日 🌕 午後1時30分～3時30分 | ワーク・ライフ・バランス講座 (2日制) 講師 結木 利奈氏 | 2月1日号 |

夫など、パートナーからの暴力に悩んでいませんか？

暴力は犯罪です。ひとりで悩まず、ご相談ください。

東京都の配偶者暴力相談支援センターなどもご紹介いたします。詳しいことは品川区男女共同参画センターへ TEL. 5479-4104

★男女共同参画センターDV専門相談……………毎月第1・3・4・5 ☀️ 午後1時～4時

……………毎月第2 ☀️ 午後5時30分～8時30分 ※事前予約による面接または電話相談。

☆しながわ見守りホットライン ※24時間つながります。

(DV) TEL. 3777-6601 (児童虐待) TEL. 3772-6622 (高齢者虐待) TEL. 3772-6699 (障害者虐待) TEL. 3772-6605

★国（内閣府男女共同参画局）の相談窓口「DV相談ナビ」……………TEL. 0570-0-55210（お近くの相談窓口を自動音声によりご案内）

📞 緊急のときは（身の危険を感じたら）……………警察 110番（事件発生時）

男女共同参画推進登録団体紹介19 「品川はらっぱ探検隊」

代表 荻野 正

どろんこになったり木に登ったり、かつては当たり前だった遊びができる「場所」も「機会」も今は失われつつあります。

『品川はらっぱ探検隊』はそんな遊びこそが、その子らしく健やかに育つ上でかけがえのないとても大切なものだと考え、二つの活動を行っています。

一つ目は「はらっぱであそぼう」一日だけの冒険遊び場を区内さまざまなところで行ってきました。

『はらっぱであそぼう』は今年の9月で15回目を迎えました。区内の8箇所延べ6,000人以上の人たちが参加しています。写真はそんな『はらっぱであそぼう』の風景です。どうですか。子どもたちのはじける歓声が聞こえてきませんか。

もちろんこの子どもたちの姿と出会えるのが、私たちのエネルギー源ですが、さらに私たちを力づけてくれるものがあります。それは回を重ねるごとに増えてくる、遊びを大切に思うお父さん、お母さん、様々な大人たちの広がりにつながりです。私たちの社会はまだまだ子どもにやさしいとは言えません。でもこんな人たちが品川中にどんどん広がり、つながっているのだと思うと、未来が明るく見えてきます。

二つ目は『はらっぱ探し』子どもが心ゆくまで遊ぶことができるはらっぱを探し公園や空き地を探検しています。「ここでどんな遊びをしているのだろう。」「ここでどんな遊びができるのだろう。」「ここで『はらっぱであそぼう』をできないかな。」と話し合うのはとても楽しいですよ。あなたも一緒に探しに行きませんか？あなたのまちにそんなはらっぱはありませんか。
(宮里和則)



男女共同参画センターからのお知らせ

女性相談員による相談室

心や、生き方の悩み、
家庭のことで困っていること、
また、法律に関することや離婚、金銭トラブルなど、
お気軽にご相談ください。
(男性もご利用ください)

※原則、品川区在住の方が対象です

電話相談

カウンセラーによる電話相談

毎月第1・2・3木曜日 午前10時～午後4時

(ただし、木曜日が祝日の場合はお休みとなります)

正午～午後1時前後は休憩時間のため、対応できないことがあります。

終了時間が午後4時ですので、お電話は午後3時30分ごろまでお願いいたします。

専用電話 5479-4105

面接 相談

無料。事前予約が必要です。予約電話 5479-4104

※予約受付時間 平日午前9時～午後5時

| | 相談時間 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--------|---------------|--------------|-----------------|-----------------|--------------------|
| 弁護士 | 午後1時～3時30分 | 7日 (水) | 11日 (水) | 1日 (水) | 1日 (水) |
| | 午後1時～3時30分 | 13日 (火) | 17日 (火) | 14日 (火) | 7日 (火) |
| | 午後5時30分～8時 | 19日 (月) | 23日 (月) | 20日 (月) | 13日 (月) |
| カウンセラー | 午後1時～4時 | 22日 (木) | 26日 (木) | 23日 (木) | 23日 (木) |
| DV相談 | 午後1時～4時 | 2・16日 (金) | 6・20・27日 (金) | 3・17・24日 (金) | 3・17・24・31日 (金) |
| | 午後5時30分～8時30分 | 9日 (金) | 13日 (金) | 10日 (金) | 10日 (金) |

※法律相談は、弁護士に法律に関することを
カウンセリングはカウンセラーにこころと生き方の悩みごとを
DV相談は、専門相談員にDVに関することを相談できます。

☆交流室や会議室を、男女共同参画の推進を目的とする活動や学習のために、ご利用ください。交流室には資料コーナーが併設されています。

◇交流室 18席(最大): 個人やグループの活動の場としてご利用ください。

◇会議室 36席(最大): 利用する場合は、あらかじめ団体登録が必要です。詳しくは男女共同参画センターにお問い合わせください。

特集記事にご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。

○次号「マイセルフ 自分らしく」54号は平成29年4月発行予定です